

5) 手

手の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-17 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（手）

区 分	コメント
大きな傷の手術	・ リウマチによる手首の手術のため、整形外科にかかっていたのに、入院日になって部屋が空いていないということになり、産科に入院させられた。産婦人科ではないので悩みを持つ女性が多く暗い感じの部屋で整形外科とは全然違う雰囲気、こちらまで暗くなった。看護師さんたちも、とても事務的で、肉体的な世話が必要な人がいない科だからか、手を吊っているのに食事も運んでくれることは無かった(30 歳代女性) ・ 完治するかどうかはわからなかった(30 歳代男性) ・ 経験がなかったので不安だった(40 歳代男性) ・ 現在の状況と今後の治療方針の説明を受けているとき、病院側はとても細かく親切に説明してくれていて安心していたのですが、私自身、手術を受けたことがなかったので“手術”という言葉に敏感に反応してしまった(30 歳代女性) ・ 左右の母指CM関節症で手術。ほんとに治るのかと不安になった。特に左手は人工関節を2回入れたがうまくいかず、ピンと針金で固定。それもピンが浮いてきたので取り外す手術と4回も手術したので…。右手もピン固定が駄目で針金固定にし、結局それもはずした(60 歳代男性) ・ 出血があったので怖かった(20 歳代女性) ・ 傷が残るかどうか心配だった。それに関しての医師の説明がなかった(50 歳代女性) ・ 痛かっただけ(20 歳代女性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	・ 悪いかどうか(20 歳代女性) ・ 医者の態度。あからさまな上目線での物言いや、素振りが不快で診断結果の信憑性も疑ってしまう。一部の医者に限りますが、そういう人が居るのも確かです(20 歳代男性) ・ 術後指の関節が10度程度曲がってしまうということを説明されていなくて、術後は元通りになると思っていたのに、今でも指が曲がったままです(50 歳代男性) ・ 不安(40 歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	・ 骨折しているかどうか心配だった(60 歳代男性) ・ 仕事しなきゃ、治りますよ…な発言(30 歳代女性) ・ 初めて聞いた病名だったので完全に直るのかの点で不安でした(60 歳代男性) ・ 触診で患部を触られた事で過度の痛みがあった。が止むを得ない事だと思っている(40 歳代男性) ・ 診察の際に粗野に扱われた(40 歳代男性) ・ 診察を受けるまでの待ち時間が3時間程度あった(30 歳代男性)

6) 股関節

股関節の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-18 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（股関節）

区 分	コメント
大きな傷の手術	・ MRIの半円状の中に入るのが怖かった(30 歳代女性) ・ これからの生活が、どうなるのか、また、入院日数とかがどれくらいになるのかが判らなかった(40 歳代女性) ・ どれだけ痛いのか、治療日程が不安であった(50 歳代女性) ・ レントゲンを撮る前の着替えをする際に入口を開けたままにされた(50 歳代女性) ・ 医師からの説明が不十分だった(30 歳代女性) ・ 医師の説明が足りなかった。検査技師が無愛想で、無理な体位を求められて困っているのに手助けしてくれないばかりか、舌打ちされた(30 歳代女性) ・ 医者もどうしたらいいか判断しかねる状態で、こちらも何がベストな選択なのかわからない状態が続いた。転院の時に意外と引き継ぎがされないことにも驚いた(30 歳代女性) ・ 何をすることも初めてで不安(20 歳代男性) ・ 開脚しないとX線が撮れないとの事で無理やり足を開き、それから数日股関節の痛み苦しむことになった(50 歳代女性) ・ 外科的な手術は初めてだったので、全身麻酔が不安だった(60 歳代男性) ・ 関節鏡検査をした時に、関節の中を見るために、思いっきり足を器具でひっぱられて、検査後、足が痛くて歩けなかった(30 歳代女性) ・ 検査の種類が多々あり、長時間となる、痛みを伴う体位での画像撮影があり苦痛だった(30 歳代女性) ・ 股関節の手術後の経過も心配であるが、もう片方の股関節の痛みが一時期あり状態によっては手術が必要と言われていたので、検査の日はいつも不安を感じる(50 歳代女性) ・ 最初の病院でこれは治らないし、数年で歩けなくなるかもと笑いながら言われた事。病院を変え手術・入院を決めた病院の整形外科教授に、「母親がサボったんだね」(子供のころに検診をしていたら分かっていたはずでは?)と言われ、母親がその場にいなかったから良いようなものの、非常識な発言に怒りを感じた(30 歳代女性) ・ 細部まで丁寧な説明で、大変な手術である事がわかって、かえって不安になった(50 歳代女性) ・ 手術に対する漠然とした不安感(50 歳代女性) ・ 手術の内容を説明されなかったので自分で調べた(30 歳代女性) ・ 手術への不安感(30 歳代男性) ・ 全身麻酔で実施する手術の施術であること(50 歳代男性) ・ 造影CTをするときの注射が痛かった(関節に造影剤を入れるので仕方がないとは思いますが)(40 歳代女性) ・ 待ち時間が長い上に色々な検査でぐったりしてしまった(50 歳代女性) ・ 大きな手術だった為、術後のリハビリや回復度、元の生活がおくれるのかなどの不安(30 歳代男性) ・ 長い間辛抱してて、車椅子までになっても手術したくなかった。怖さばかり(60 歳代女性) ・ 長期の入院、通常の生活に戻るまでの期間の長さの為の離職(40 歳代女性) ・ 適切な診断が得られるかどうか(60 歳代男性) ・ 入院前に1ヵ月半で退院できると聞いていたが、実際には3ヶ月の入院だった(20 歳代女性) ・ 羞恥心が伴った(30 歳代女性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	・ レントゲンを取るときに、控え室に戻った若い医師達が笑っていたのが悔しかった。診断されたときに思ったより重症と告げられ、いつ骨が折れてもおかしくないと言われた。人工物をいれてそれが駄目になったときの再手術が大変だと、よく聞くと教えてくれたように後出しが不安をあおった(30 歳代男性) ・ 医師からの説明不足(40 歳代女性) ・ 手術になるのか不安(30 歳代女性)
小さな傷の手術 (その他)	・ この先生活していく上での不安。検査には不安はなかったが、手術とかに関しては、受けた事がなかったのも、それはそれなりの不安はあった(40 歳代女性) ・ 術後通常の生活が送れるか否か考えた(60 歳代男性)

7) 膝関節

膝関節の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-19 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（膝関節）（1／2）

区 分	コメント
大きな傷の手術	・ MRIの検査時の低音騒音が不安に感じた(50 歳代男性) ・ この先、スポーツは続けられるのだろうか？と言う事(40 歳代男性) ・ どこがどう悪いのかの説明が中途半端で、専門用語が多く、ちゃんと聞きたかったが、痛みに耐えられず、言い成りになっていた(50 歳代男性) ・ ほんとに治るのかどうか判らないまま、(医者もやってみなければわからないと言っていた)手術を行った(50 歳代男性) ・ 勤務地が新木場で、病院が八王子だったため、通院するときは全く業務に専念できなかった(40 歳代男性) ・ 血液検査等、長時間拘束された(40 歳代男性) ・ 仕事を休まなくてはならなくなることが不安だった(40 歳代男性) ・ 手術後、麻酔から醒めた時に、身体のあちこちに管がついていた。何の管か分かるものもあったが分からない物もあり、事前の説明不足を感じた。また、どのくらいの期間リハビリが必要か事前に知らせて欲しかった(50 歳代女性) ・ 痛かった(30 歳代男性) ・ 痛みに関する不安(40 歳代女性) ・ 痛みを理解してもらえなかった(20 歳代男性) ・ 動かす時の痛み(40 歳代男性) ・ 漠然とした不安を感じた(50 歳代男性) ・ 慢性関節リュウマチで両膝関節の人工関節置換手術を受けた。痛みで歩き難い状態だったのが、歩けるようになるのか不安だった(60 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	・ 2週間の入院と1週間の自宅静養のため、会社に行けず、仕事の面で心配だった(40 歳代女性) ・ MRIは時間が長いのに、動くな、咳をするな、くしゃみをするな、など制約が多過ぎですね(60 歳代女性) ・ けがをした以前のような日常生活に戻ることができるだろうか(50 歳代男性) ・ しっかり治るかという不安。手術が怖かった(20 歳代男性) ・ その後の回復及び生活に与える不安とリハビリの期間や最適な方法がわからなかった(40 歳代男性) ・ テスト？を整形外科の先生がした際、痛みが強かった(40 歳代男性) ・ はじめ症状がわからず、手術までに時間がかなり経過することになった。日常生活に制限がかなりあった(20 歳代女性) ・ レントゲンでは半月板損傷が判断できず、無駄に長い通院を要した。何度通院して注射しても良くならないのでMRIを撮って欲しいと言ってやっと撮ってもらって、その時、膝の軟骨ではなく半月板が傷んでいたのが判った。早くにMRIを撮っていれば無駄な時間を掛けずにすんだと思うと病院の利益の為に通院させられたのではないかと不審に思った(30 歳代女性) ・ 医師により見解が分かれ、納得できる説明を受けられるまで四人も医師が変わった(50 歳代女性) ・ 医師に何を聞いても答えてくれない。こちらからこうなんですかと尋ねるとそうかもしれないとしか話してくれない(60 歳代男性) ・ 医者によって細かく言うことが違った。日ごろの過ごし方やこの怪我とどう付き合っていけばいいのか、処置の仕方が違った。どうすれば良かったのか？わからなくなった(20 歳代女性) ・ 怪我の詳細を知るために、足を曲げ伸ばしするがゆっくりしてくれない(20 歳代男性) ・ 完治するかどうか？(60 歳代女性) ・ 完治するかどうか心配で不安になった(50 歳代女性) ・ 完治することはないといわれた(40 歳代男性) ・ 完治の方法が具体的でなかった(40 歳代男性) ・ 患者に対する扱いが少し雑であったように思う(60 歳代女性) ・ 簡単な手術で日帰り退院できると言われ手術したが現在もまだ痛い(60 歳代男性) ・ 検査結果の説明が本当なのか判断出来ない事(30 歳代男性) ・ 見えない場所だし、本当によくなっていつているのか凄く不安だった。急にはよくならないから(40 歳代女性)

表3.3-20 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（膝関節）（2／2）

区 分	コメント
	・ 仕事をどうしようと、不安になった(40 歳代男性) ・ 手術をすることで本当に完全になおるのか(50 歳代男性) ・ 手術前に、膝内部の状態によってどのような手術となるのか(半月板全摘など)、またその後の経過(再発の恐れなど)の説明が出来たにも関わらず、なんの説明もなしに麻酔から覚めたら、全てが医者独断で終わっていた(20 歳代女性) ・ 診察後も痛みが続いた(40 歳代男性) ・ 正座が出来ると思っていたが出来ないとわかった時ガックリした。私も聞かなかったけどもう少し教えて欲しかった。今度人工関節をしたらいいと言われたが本当に良くなるのか不安。した人に聞くとほとんどの人がしない方がいいよといわれるので本当に迷う(60 歳代女性) ・ 説明不足(30 歳代男性) ・ 説明不足を感じた。手術前の問題点、手術内容、術後の改善の見込みと問題点、術後すぐの時間経過による痛みなどの予測等聞けなかった(60 歳代女性) ・ 担当医師の説明がほんの1～2分と短く、あまりに事務的でこちらから質問することもできなかった(30 歳代女性) ・ 長期間不自由な生活を送った(50 歳代男性) ・ 痛みが常にあり、坂道、階段の登りがきつかった(50 歳代男性) ・ 痛みと直るかどうか不安でした(60 歳代女性) ・ 膝にたまった水を抜く時に若い医師に当たったが、下手くそでものすごく痛かった(20 歳代男性) ・ 歩けるかどうか(20 歳代女性) ・ 予約をしていても待ち時間が長いのは嫌だ。軟骨は検査しにくいということが不安である(40 歳代女性)
小さな傷の手術 (その他)	・ このまま、歩けなくなるのではと、とても不安だった(60 歳代女性) ・ 原因や治療法が分からないと言われた(20 歳代女性) ・ 後遺症(50 歳代女性) ・ 術後の管理、今後のあり方、どう付き合えば良いかなどの説明があっても良いと思う(50 歳代男性) ・ 靱帯断裂は初めてで、手術できず、周辺の筋力アップでした対処できないことがわかったとき(40 歳代男性)

8) 足

足の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-21 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（足）

区 分	コメント
大きな傷の手術	・ アキレス腱を切ったのだが、とにかく足が動かない違和感が大きく、更に一晚待たされた（その日は手術できなかったため）ことにより一晩よく眠れなかった（40 歳代男性） ・ あまりなじみのないものだったので費用がどれだけかかるのか不安だった（20 歳代女性） ・ うるさかった（30 歳代女性） ・ ただの捻挫にされた（60 歳代女性） ・ レントゲンを撮る際に、通常の状態と比べるために無理にまげて撮ったのが苦痛だった。入院及び退院後の車椅子、松葉杖が不快だった（40 歳代男性） ・ 手術日が直ぐに決まらず、全治も3ヶ月予定との診断で、先行きに不安を感じた（30 歳代男性） ・ 身体にどの程度のダメージがある手術なのかと言う不安（60 歳代男性） ・ 担当医師からの説明だけでは、今後の完治の経緯について不安があった（20 歳代男性） ・ 膝に受けた注射の痛さ。医師の説明不足（40 歳代女性） ・ 本当に完治するのか、不安だった（20 歳代男性） ・ 本当に手術が必要なのか……。 （30 歳代女性） ・ 流れ作業的で、事務的だった（30 歳代男性）
小さな傷の手術 （内視鏡）	・ どの程度に期間で完治するのか心配であった（20 歳代男性） ・ 触られると痛かった（60 歳代女性） ・ 痛さ、かゆさが嫌でした（40 歳代女性） ・ 歩くのがたいへんだった（40 歳代男性）
小さな傷の手術 （その他）	・ なおるか（20 歳代女性） ・ ひねりだけだと思いひどくなってからいった。元に戻るか不安になった（50 歳代女性） ・ 医師によって対応状況が違うこと（30 歳代男性） ・ 医師の対応が機械的で、インフォームドコンセントなど全く無く、飲み薬とシップのみを処方された。また電気治療も何のためか分からないまま受けた（20 歳代女性） ・ 一生治らないと言われた（40 歳代男性） ・ 手術をして本当に元通り歩けるか不安だった。具体的にどこまで治るかの説明がなかった（50 歳代女性） ・ 前の患者に対して医師が説明しているものが外の待合場所に丸々聞こえていて大丈夫か不安になった（30 歳代男性）

9) 骨折

骨折の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-22 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（骨折）（1／2）

区 分	コメント
大きな傷の手術	- これからどのような検査や治療を受けるのかわからず不安だった(30 歳代男性) - とにかく待ち時間が長かった(20 歳代男性) - とにもかくにも、以前のように元通りに直って、不自由なく生活できるか不安だった(40 歳代男性) - リゾート地でウィンタースポーツをしているときに骨折したが、診療所しかなく、そこで「下山してから整形外科を受診するように」といわれ翌日行ったが、処置がしてあったため担当医から「なんで来たの？来る必要あるの？」といわれ理不尽に感じた(20 歳代女性) - リハビリの大変さ(40 歳代女性) - レントゲンを見たとき鎖骨が、胸のあたりまで落ちてたので驚愕した(50 歳代男性) - レントゲンを撮るときに技師と看護師が談笑していたのは不安を煽られ不快感も感じた。診断時に於いては医師の「やっつけ仕事の」な雑な物言いにも同様に不安と不快を感じた(40 歳代男性) - 扱いが傷にあたり痛かった(60 歳代男性) - 医師の態度(20 歳代男性) - 右足脛骨腓骨を骨折した際に、ギプス固定するときに骨の位置合わせのときに痛みと苦痛を感じた(50 歳代男性) - 元通りに直るだろうかとの不安(60 歳代男性) - 元に戻るか不安(60 歳代女性) - 元の状態に戻るのか不安なのに、自信ないような言い方をされ、不安が増した(40 歳代男性) - 交通事故だったのだが、緊急だった為か、ほとんど医師からの説明もなく、検査医や検査技術者からの説明もなく、こちらも事故直後から、高揚、動揺していたこともあるが、とても不安だった。優しい声かけや処置に対する説明がもっと欲しかったと思う(50 歳代女性) - 行動を制限された(30 歳代男性) - 事前に何をどうされるかを言われなかった(30 歳代男性) - 手術のとき神経を切られたせいでその部分が微妙な感覚がなくて、何かに当たったりしたら激痛が走り、その旨を医者や看護婦に言っても何も説明も無かったときに、不安で、不快でした。20 年以上たって最近やっと気にならなくなりました(50 歳代男性) - 手術内容の説明が不十分だった(50 歳代男性) - 詳しい説明がなかった(20 歳代女性) - 説明がない(50 歳代女性) - 大腿部骨折の為、全身麻酔をするのが、肺が汚くて、1週間手術を伸ばされた。その間物凄く痛みに悩まされた。またレントゲン室にも移動出来ず、病室にて撮影だったが、激痛だった(60 歳代男性) - 痛くておぼえてない(50 歳代女性) - 当たり前だが、動かすと痛みがある(50 歳代男性) - 入院した病院の問題だと思うが、検査予約の時間に行っても検査まだ待たされる。足関節を脱臼骨折したので仕事に早期復帰できず収入が無い状態が長期続き精神的に不安であった(30 歳代男性) - 麻酔による後遺症(60 歳代男性) - 無理やり腕を曲げられたような気がした(30 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	- あちらは毎日のことで仕方がないと思うが、こちらは、不安や落ち込みがあるので、それに対してもっと丁寧に話したり、それなりの態度で接してほしい(40 歳代女性) - この指が曲がらないのではないかと不安(40 歳代女性) - ちゃんと治るのか？(20 歳代男性) - どんな検査をするのか不安だった(30 歳代女性) - 医師・看護師の説明が不十分(30 歳代女性) - 具体的でないこと(20 歳代男性) - 骨折部を動かされたことによる(20 歳代男性) - 診察に時間がかかった(40 歳代男性) - 怖い(50 歳代男性)

表3.3-23 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（骨折）（2／2）

区 分	コメント
小さな傷の手術 （その他）	・ いつまで痛みが続くのか、直るのか不安でした(50 歳代女性) ・ レントゲン撮影時、痛みのある場所を下にしたために強い痛みが毎回あった(30 歳代女性) ・ 医師の説明がはっきりしないので、元通りになるのか少し不安を覚えた(50 歳代男性) ・ 引っ張ったりされて痛かった(20 歳代男性) ・ 泣いているのに、医者に見視された(20 歳代女性) ・ 業務上の負傷で、後々に影響しないのか不安だった(60 歳代男性) ・ 検査待ち時間が長い(50 歳代男性) ・ 元のように直るのか医師の説明がもう一つで不安があった(60 歳代男性) ・ 初めてなので完全に直るか不安だった(60 歳代女性) ・ 痛みがあるにもかかわらず、骨折を見逃され、2週間後に再診してもらい、骨折が見つかった。そのため、初期の最も大切な処置が疎かになったように思え、どの医師を信頼して良いのか、その処置が最良なのか、と疑念を持った(50 歳代女性) ・ 病院、医師、看護師には不満も不安も無かったが両足の骨折で両足をギブスで固定されていた為に日常の自分への不安があった(60 歳代男性) ・ 包帯の巻き方が毎回違う(40 歳代女性)

3.3.2.3. 手術・処置

(1) 手術・処置の種類別にみた通院状況

手術・処置の種類別にみた回答者の通院状況は、以下のとおりであった。

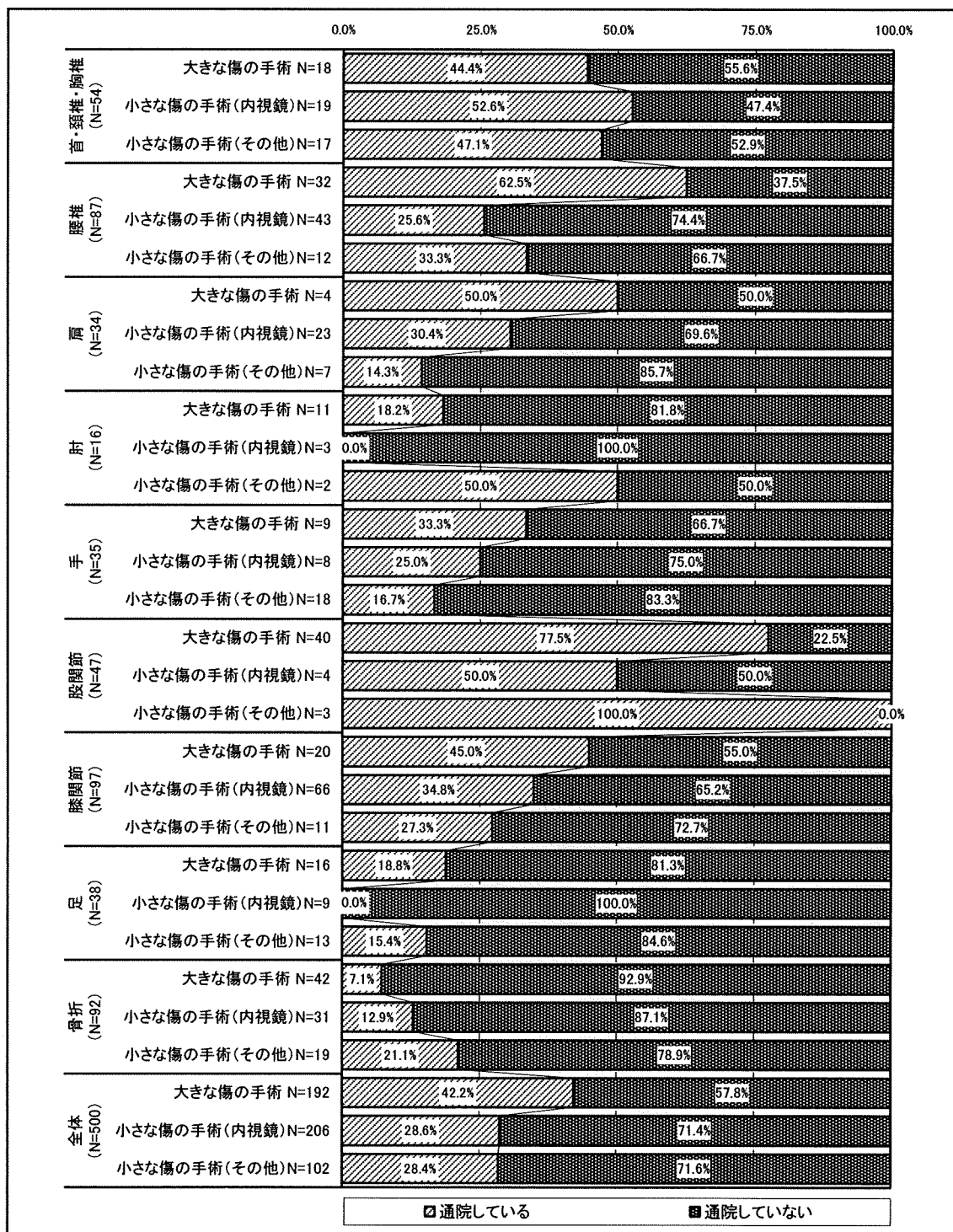


図3.3-7 手術・処置の種類別にみた通院状況

表3.3-24 手術・処置の種類別にみた通院状況

疾患部位	手術・処置の種類	現在治療のために 通院している		現在治療のために 通院していない	
		件数	割合	件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 N=18	8	44.4%	10	55.6%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=19	10	52.6%	9	47.4%
	小さな傷の手術（その他） N=17	8	47.1%	9	52.9%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 N=32	20	62.5%	12	37.5%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=43	11	25.6%	32	74.4%
	小さな傷の手術（その他） N=12	4	33.3%	8	66.7%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 N=4	2	50.0%	2	50.0%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=23	7	30.4%	16	69.6%
	小さな傷の手術（その他） N=7	1	14.3%	6	85.7%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 N=11	2	18.2%	9	81.8%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=3	0	0.0%	3	100.0%
	小さな傷の手術（その他） N=2	1	50.0%	1	50.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 N=9	3	33.3%	6	66.7%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=8	2	25.0%	6	75.0%
	小さな傷の手術（その他） N=18	3	16.7%	15	83.3%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 N=40	31	77.5%	9	22.5%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=4	2	50.0%	2	50.0%
	小さな傷の手術（その他） N=3	3	100.0%	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 N=20	9	45.0%	11	55.0%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=66	23	34.8%	43	65.2%
	小さな傷の手術（その他） N=11	3	27.3%	8	72.7%
足 (N=38)	大きな傷の手術 N=16	3	18.8%	13	81.3%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=9	0	0.0%	9	100.0%
	小さな傷の手術（その他） N=13	2	15.4%	11	84.6%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 N=42	3	7.1%	39	92.9%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=31	4	12.9%	27	87.1%
	小さな傷の手術（その他） N=19	4	21.1%	15	78.9%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 N=192	81	42.2%	111	57.8%
	小さな傷の手術（内視鏡） N=206	59	28.6%	147	71.4%
	小さな傷の手術（その他） N=102	29	28.4%	73	71.6%

(2) 手術・処置時の不安・不快

「手術・処置時に不安・不快を感じた」回答者の割合は、全体でみると、「検査・診断時になんらかの不安・不快を感じた」が 53.0% (265 件) と最も多く、次いで「不安・不快は感じなかった (意識はあった)」が 31.6% (158 件)、「不安・不快は感じなかった (意識はなかった)」が 15.4% (77 件) である。

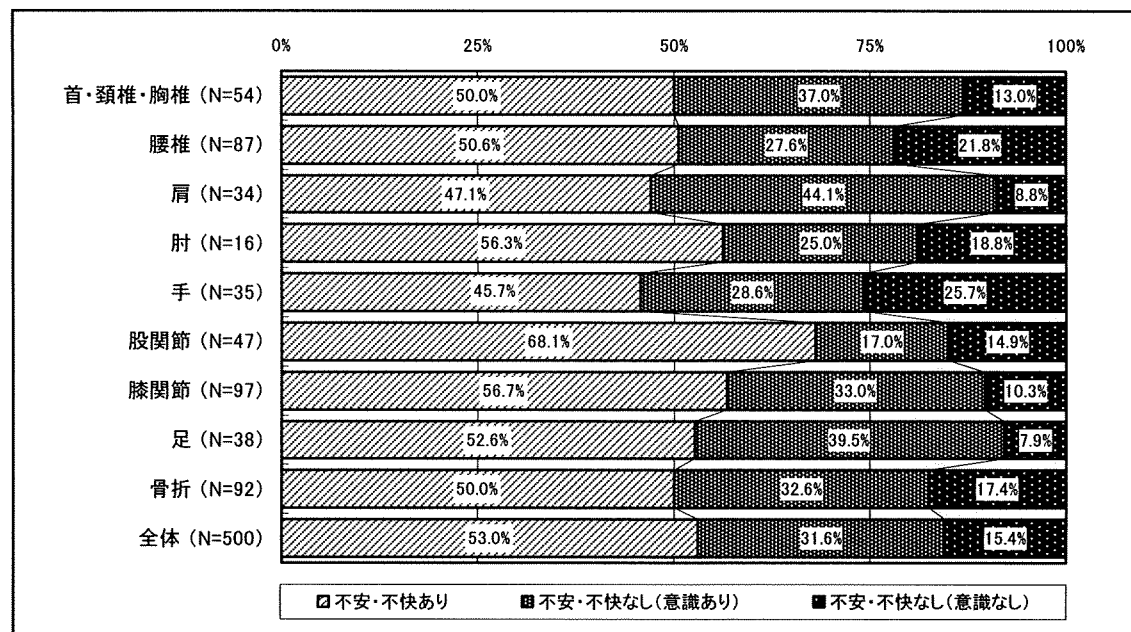


図3.3-8 手術・処置時の不安・不快

表3.3-25 手術・処置時の不安・不快

疾患部位	なんらかの不安・不快を感じた		不安・不快は感じなかった				全 体	
	件数	割合	意識はあった		意識はなかった		件数	割合
			件数	割合	件数	割合		
首・頸椎・胸椎	27	50.0%	20	37.0%	7	13.0%	54	100.0%
腰 椎	44	50.6%	24	27.6%	19	21.8%	87	100.0%
肩	16	47.1%	15	44.1%	3	8.8%	34	100.0%
肘	9	56.3%	4	25.0%	3	18.8%	16	100.0%
手	16	45.7%	10	28.6%	9	25.7%	35	100.0%
股関節	32	68.1%	8	17.0%	7	14.9%	47	100.0%
膝関節	55	56.7%	32	33.0%	10	10.3%	97	100.0%
足	20	52.6%	15	39.5%	3	7.9%	38	100.0%
骨 折	46	50.0%	30	32.6%	16	17.4%	92	100.0%
全 体	265	53.0%	158	31.6%	77	15.4%	500	100.0%

(3) 手術・処置時の不安・不快の内容

1) 手術後、病状が改善しなかった

「手術後、病状が改善しなかった」回答者の割合は、以下のとおりである。

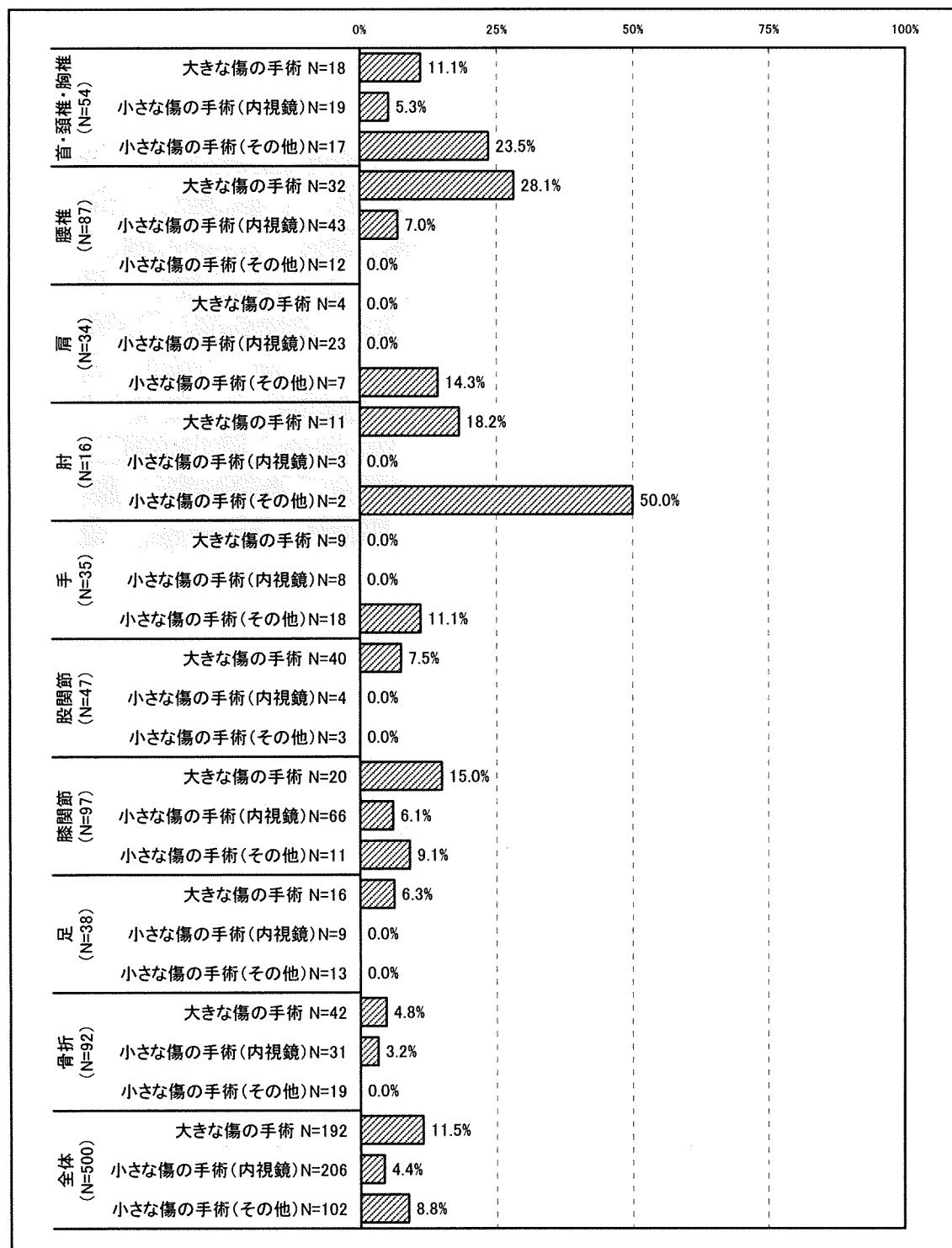


図3.3-9 手術後、病状が改善しなかった

表3.3-26 手術後、病状が改善しなかった

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、 病状が改善しなかった	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	2	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	1	5.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	4	23.5%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	9	28.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	3	7.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	1	14.3%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	2	18.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	1	50.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	2	11.1%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	3	7.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	3	15.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	4	6.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	1	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	0	0.0%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	2	4.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	1	3.2%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	22	11.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	9	4.4%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	9	8.8%

2) 手術後、痛みが残っている

「手術後、痛みが残っている」回答者の割合は、以下のとおりである。

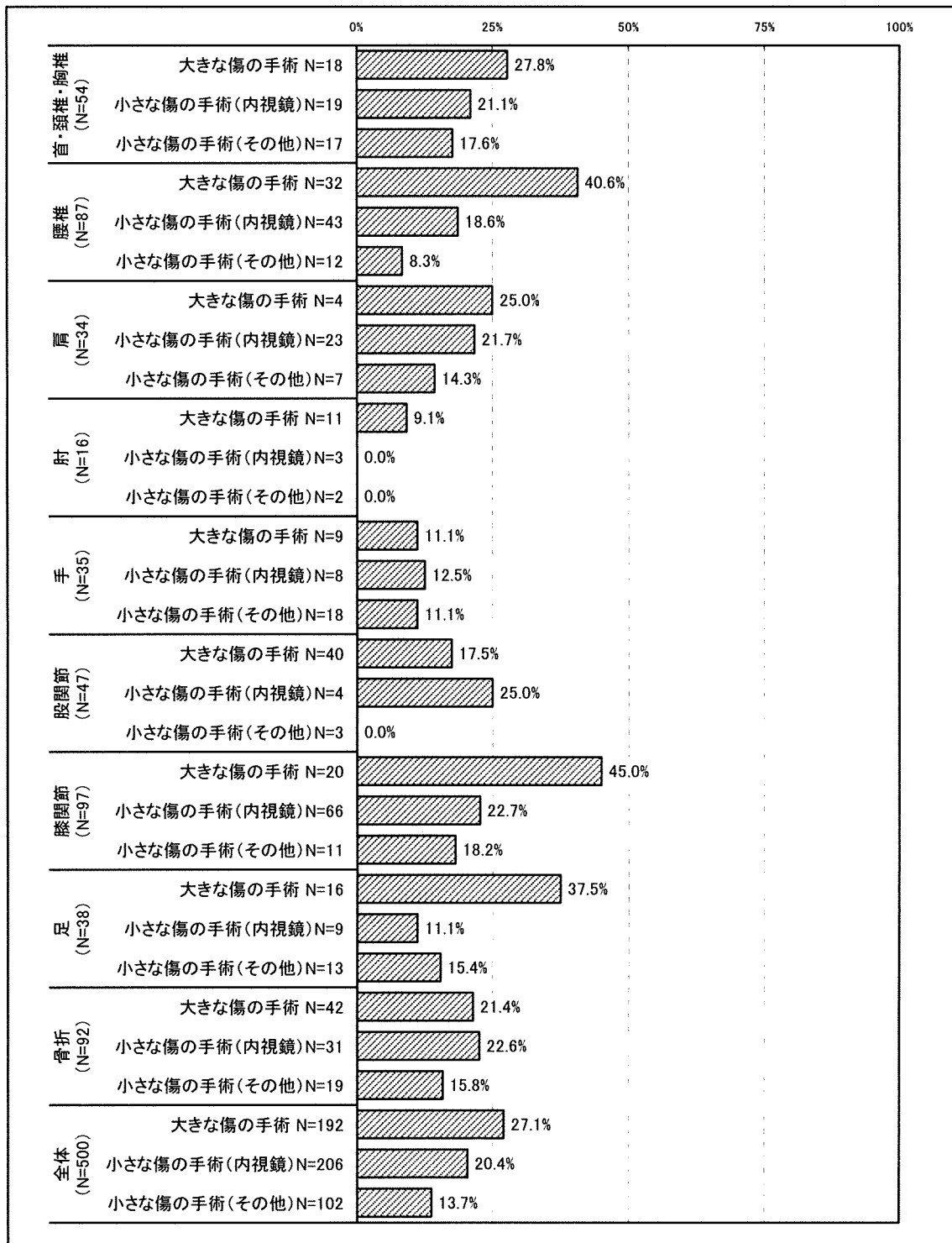


図3.3-10 手術後、痛みが残っている

表3.3-27 手術後、痛みが残っている

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、 痛みが残っている	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	5	27.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	4	21.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	3	17.6%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	13	40.6%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	8	18.6%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	1	8.3%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	5	21.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	1	14.3%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	1	9.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	1	12.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	2	11.1%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	7	17.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	9	45.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	15	22.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	2	18.2%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	6	37.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	2	15.4%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	9	21.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	7	22.6%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	3	15.8%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	52	27.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	42	20.4%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	14	13.7%

3) 手術後、後遺症が残った

「手術後、後遺症が残った（麻痺など）」回答者の割合は、以下のとおりである。

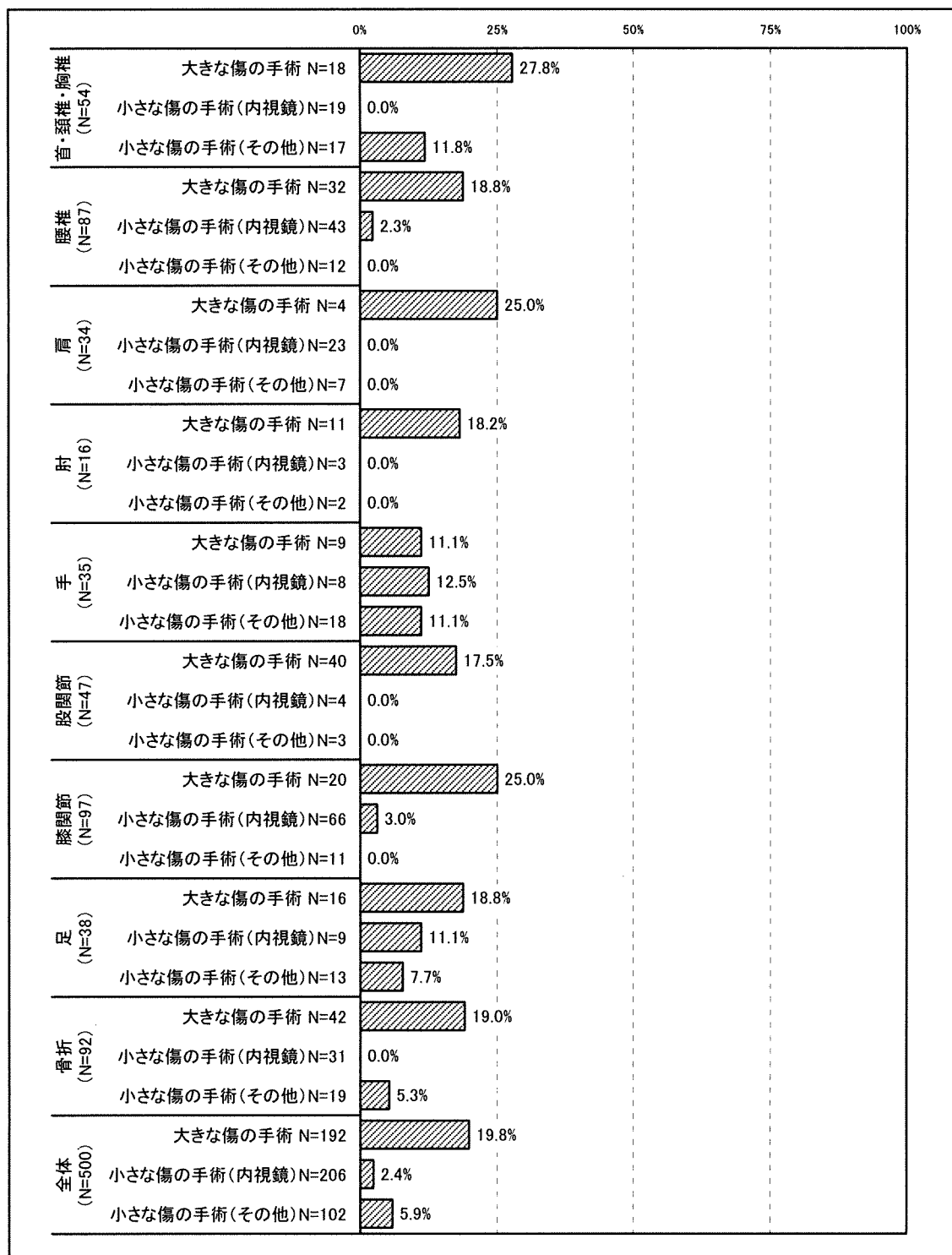


図3.3-11 手術後、後遺症が残った

表3.3-28 手術後、後遺症が残った

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、 後遺症が残った	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	5	27.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	2	11.8%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	6	18.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	1	2.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	2	18.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	1	12.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	2	11.1%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	7	17.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	5	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	2	3.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	0	0.0%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	3	18.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	1	7.7%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	8	19.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	1	5.3%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	38	19.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	5	2.4%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	6	5.9%

4) 手術後、傷あとが気になる

「手術後、傷あとが気になる」回答者の割合は、以下のとおりである。

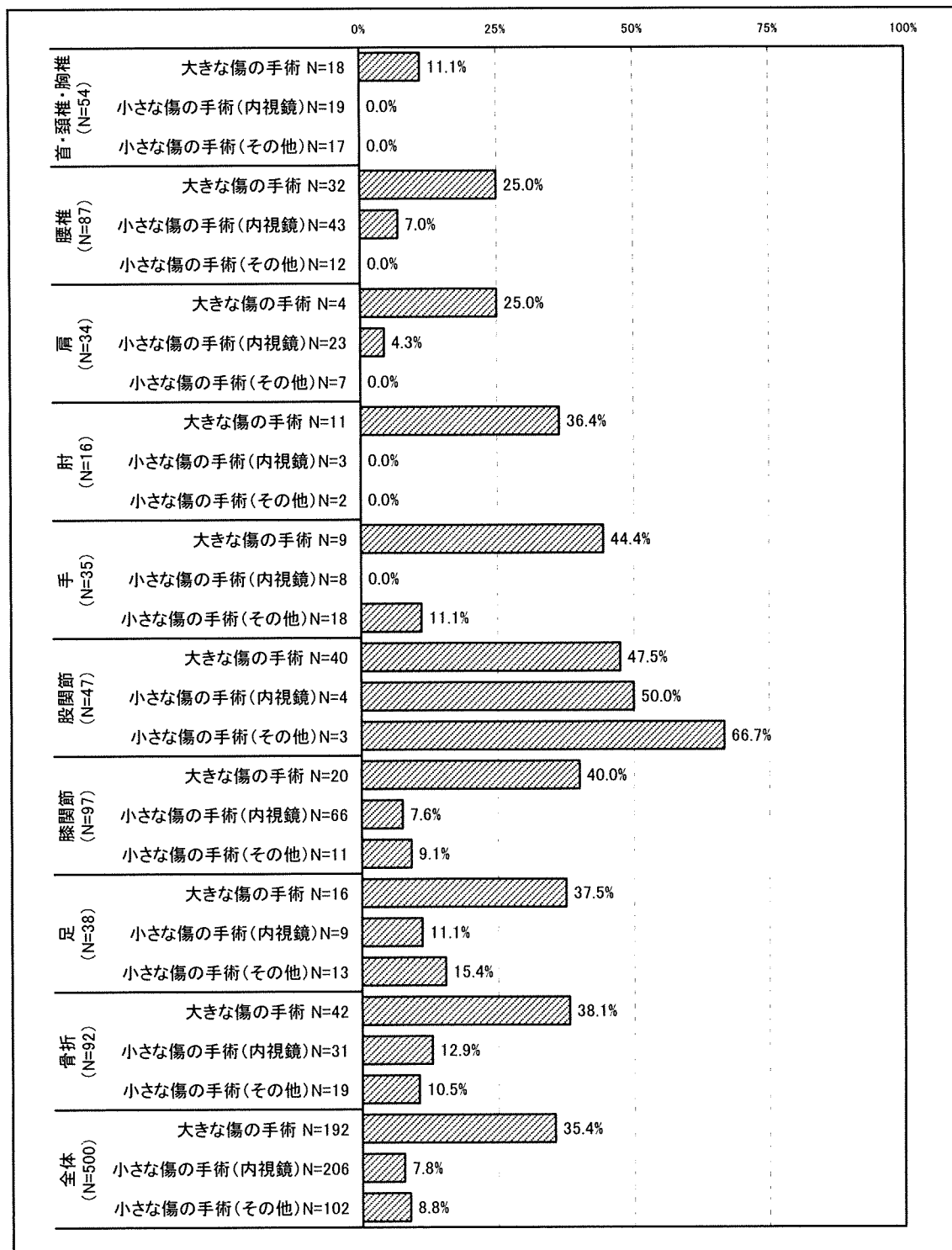


図3.3-12 手術後、傷あとが気になる

表3.3-29 手術後、傷あとが気になる

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、 傷あとが気になる	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	2	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	0	0.0%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	8	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	3	7.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	1	4.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	4	36.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	4	44.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	2	11.1%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	19	47.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	2	50.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	2	66.7%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	8	40.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	5	7.6%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	6	37.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	2	15.4%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	16	38.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	4	12.9%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	2	10.5%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	68	35.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	16	7.8%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	9	8.8%

5) 手術後、日常生活が制限されるようになった

「手術後、日常生活が制限されるようになった。社会復帰が難しくなった」回答者の割合は、以下のとおりである。

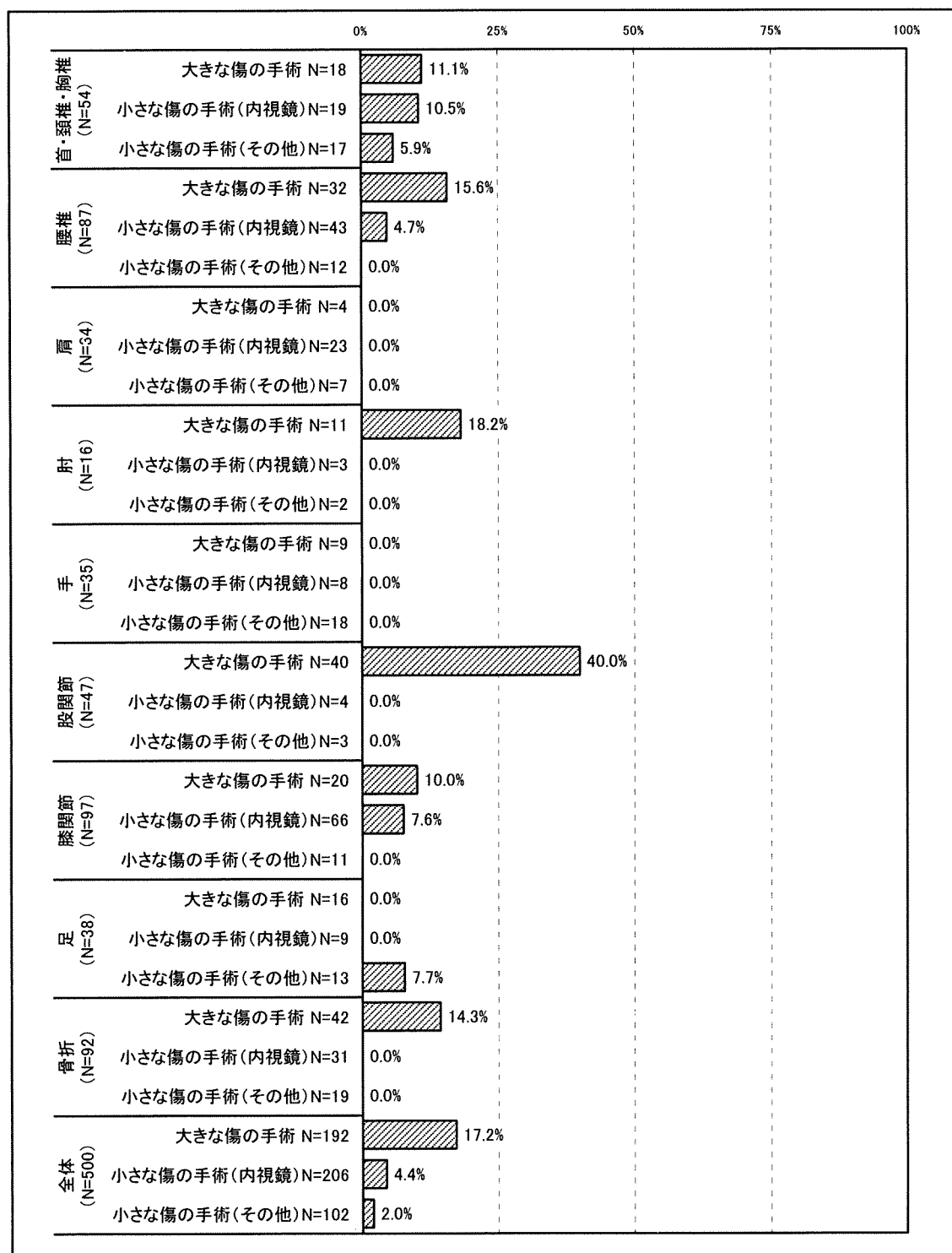


図3.3-13 手術後、日常生活が制限されるようになった

表3.3-30 手術後、日常生活が制限されるようになった

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、日常生活が制限されるようになった。 社会復帰が難しくなった	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	2	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	2	10.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	1	5.9%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	5	15.6%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	2	4.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	2	18.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	16	40.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	2	10.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	5	7.6%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	0	0.0%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	1	7.7%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	6	14.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	33	17.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	9	4.4%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	2	2.0%